

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報 第3号を下記のとおり発表します。防除指導等の参考として下さい。

なし（青なし）園地で黒斑病の発生を確認しています。今後、さらに発病の増加が懸念されますので、園地での発生状況を定期的に観察し、防除対策を徹底するようご指導願います。

令和5年度 病虫害発生予察防除情報 第3号 ナシ黒斑病の防除対策について

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 1 対象作物 | なし（青なし） |
| 2 病虫害名 | 黒斑病 <i>Alternaria kikuchiana</i> |
| 3 発生地域 | 但馬地域 |

4 発生状況と今後の発生

- (1)ここ数年本病の発生は小康状態であったが、昨年後半より栽培園地での発生が増加傾向にあり、令和5年6月16日に北部農業技術センターが実施した病害発生調査（慣行防除園）において、発病葉率22.0%（短果枝）、3.1%（発育枝）であった。これは平年値1.3%（短果枝）、0.3%（発育枝）と比較して多い発生である。また、発生圃場率（短果枝）も100%と高く（平年値53.7%）、広域に発生が見られる。
- (2)今期は梅雨入りが5月29日と平年より8日早く、定期的に降水があったことから、本病の感染に好適な条件となり発病に至ったと考えられる。
- (3)今後の天候は、近畿地方の1カ月予報によると、気温は高く、降水量は多く、曇りや雨の日は平年同様多いと予想されている。また、今期の梅雨期間は長期になるとされていることから、本病の感染・蔓延に好適な条件が継続する可能性があり、発病の増加が懸念される。

5 本病の被害と発生生態について

- (1)本病は葉、果実、新梢などに発生する。葉の初期病斑は小さな黒色斑点で、次第に黒色の不整形病斑を形成する（写真1）。激しく発病すると落葉する。生育中の果実に発生すると亀裂を生じ落果する（写真2）。成熟果では輪紋状の病斑を形成し、軟化腐敗する。
- (2)病原菌の越冬伝染源は枝病斑、病芽、落葉等で、風や雨により胞子が飛散して伝染する。生育期間の伝染源は、主に葉、果実上の病斑に形成された胞子で、二次伝染を繰り返す。

(3)病原菌の孢子形成適温は 20～25℃である。感染後の侵入は 15℃ 前後から始まり適温は 28℃である。梅雨期の高温多湿条件で発病が急増する。

6 防除対策について

- (1)園地の排水が悪いと発病を助長するので、明渠等排水対策を十分に行うこと。また園地や樹冠内部の風通し・採光を良好にする。
- (2)生育状況を踏まえた適正な施肥管理を行う。窒素過多は発生を助長する。特に夏肥が遅効きすると新梢の二次伸びが多くなり、枝の発病、ボケ芽の発生が多くなるので、施肥時期にも注意する。
- (3)園地を定期的に見回り、落下した果実・病葉は園外に持ち出し処分する
- (4)梅雨期は発病蔓延期にあたるため、薬剤散布間隔を短くし、防除を徹底する。梅雨期以降は、十分な量の薬液を丁寧に散布する。
- (5)盛夏期及び秋期(9～10月)にも発病が増加するため、定期的に薬剤散布を行う。
- (6)耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (7)防除薬剤については、地域の防除暦や兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守する。

*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

兵庫農薬情報システムは以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222



写真1 ナシ黒斑病罹病葉 左:葉表、中:葉裏、右:発育枝における病斑



写真2 ナシ黒斑病により落果した幼果